

○「鏡の法則」

世の中は、鏡のような構造になっています。他者に行ったことは、後でその人もしくは他の人からそっくりそのまま自分自身に返ってくるものです。例えば、あなたが誰かについて悪口を言ったとします。すると、後でその相手もしくは他の人からあなたも悪口を言われるようになります。逆に、誰かのことを良く思うと、相手かもしくは他の誰かからあなたもよく思われるようになります。

インド建国の親であるガンジーは、インドだけでなく、全人類を愛していました。そして、インドをイギリスの支配から守るために、命をかけて闘いました。彼はインド国民を心から愛していたので、命をかけることすら厭（いと）いませんでした。その行いにより、インド国民も皆、ガンジーを愛していました。

さて、皆さんはどうでしょうか？「誰も自分のことを思ってくれない」といじけたり、「あいつは○○で駄目だ」と悪口を言っていないですか？『鏡の法則』に従うと、いつか自分に返ってきます。他人に思われるより、周りの人をおもいやる心を持ちましょう。悪口を言うのではなく、良いところを見つけて認めてあげましょう。それらを心掛けていると、自分の心も穏やかになり、周りの人も寄って来るものです。

誰でも、好んで嫌われたいと思っている人はいないはずですが、学校という社会の中で生活している以上、互いを思いやって良好な関係を築いていきましょう！

○ルールについて考えてみよう！

世の中には、様々な規則があります。6月1日現在、『新型インフルエンザ等対策特別措置法の一部を改正する法律』など、国が定める法律の発布や改正は、令和2年だけで33件にも及びます。学校にも、『生徒心得』等の様々なルールがありますが、皆さんはそのルールについてよく理解していますか？

おそらくは、弁護士や検察官のような法律に関する仕事をされている人を除けば、どの法律にも精通している人はいないと思いますし、常に“六法全書”を持ち歩いていないでしょう。生徒の皆さんもいつも『生徒手帳』を持ち歩いていないはずですが、実際に、今年度から『生徒手帳』の発行を止めていますので、1年生は誰も持っていません。

では、あまりルールを理解していないのに、どうして悪いことをしないのでしょうか？それは、皆さんの心の中に『モラル“moral”』（道徳）がしっかり備わっているからです。つまり、善いこと、悪いことの判断がちゃんとできるということです。ルールとは、その判断が人によってズレが生じないようにするための規準のことです。

それでも、ルールを定めていることで、「ルールに書いてないから」と、変な行動をしてしまう人がいます。そこに矛盾が生じます。そうであれば、ルールなんか無いほうが良いのではないのでしょうか？

実際に、“校則のない中学校”があり、大きな成果を挙げているのも事実です。それは全校生徒の自覚が素晴らしいからに他なりません。

ここで、もう一度、皆さんのモラルを見直してみてください。善悪の判断がしっかり出来ていれば、ルールは必要ありません。自分が心から正しいと思うことをすれば、周りも賛成してくれるはずですが、

急に校則が無くなることはないでしょうから、まずはしっかりとモラルを持ちましょう！

“悪とは何か？－弱さから生じるすべてのものである。”

by ニーチェ